

噴火湾環境情報 NO.3

2015/10/27

津軽暖流が湾内へ流入中です!!

道総研函館水産試験場
調査研究部
担当: 西田, 渡野 邊

2015年10月5~7日に噴火湾及びその周辺海域において、函館水試金星丸を用いて環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。図1(a), (b)から、10m深水温は湾内外ともに16~18°Cであり、ほぼ平年並みです。塩分の水平分布から(図1(c)), 湾口部から沖合にかけては、高温、高塩分の津軽暖流水(指標: 塩分33.6以上)が分布しています。湾内の塩分は湾外のそれよりも低いですが、暖流の流入の影響により、9月に比べ上昇しています。また、流速ベクトルの水平分布から(図1(d)), 湾内には依然時計回りの渦が形成されています。

50m深塩分の水平分布を図2に示します。湾外から湾内胆振側にかけて、塩分は33.8以上になっており、9月同様、津軽暖流水が流入しています。津軽暖流の湾内占有率を図3に示します。10月の占有率は約20%であり、流入量は、現時点では、平年の約5割弱になっています。

噴火湾底層の溶存酸素量は、渡島側で4ml/L以下と他の海域に比べ低くなっています。また、面積は9月に比べ小さくなりましたが、依然3ml/L以下の貧酸素水塊がみられます。

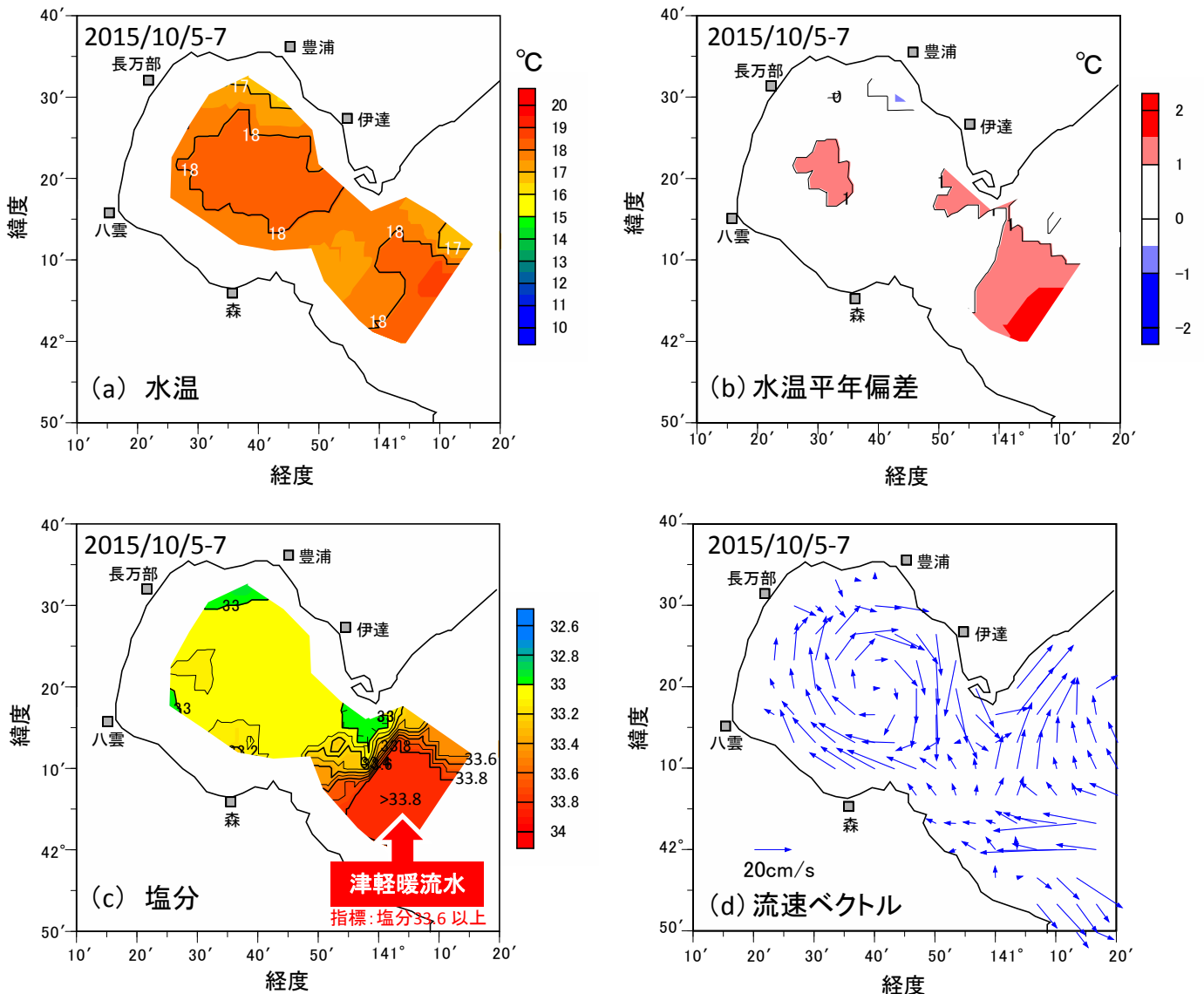


図1 深度10mにおける(a)水温, (b)水温の平年偏差, (c)塩分及び(d)流速ベクトルの水平分布

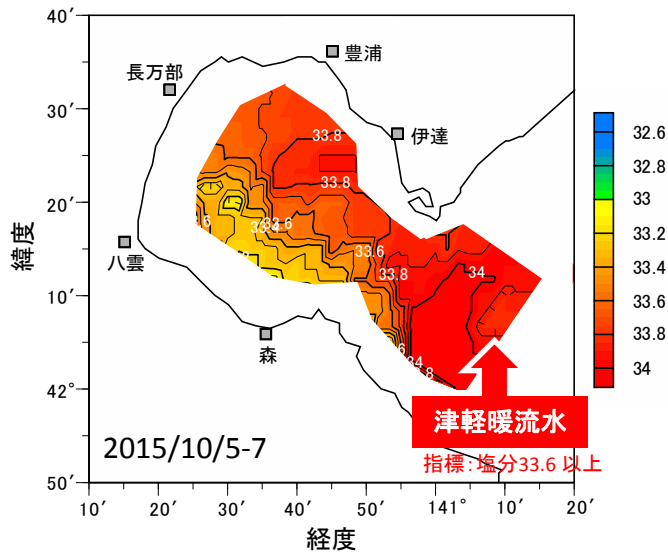


図2 深度50mにおける塩分の水平分布

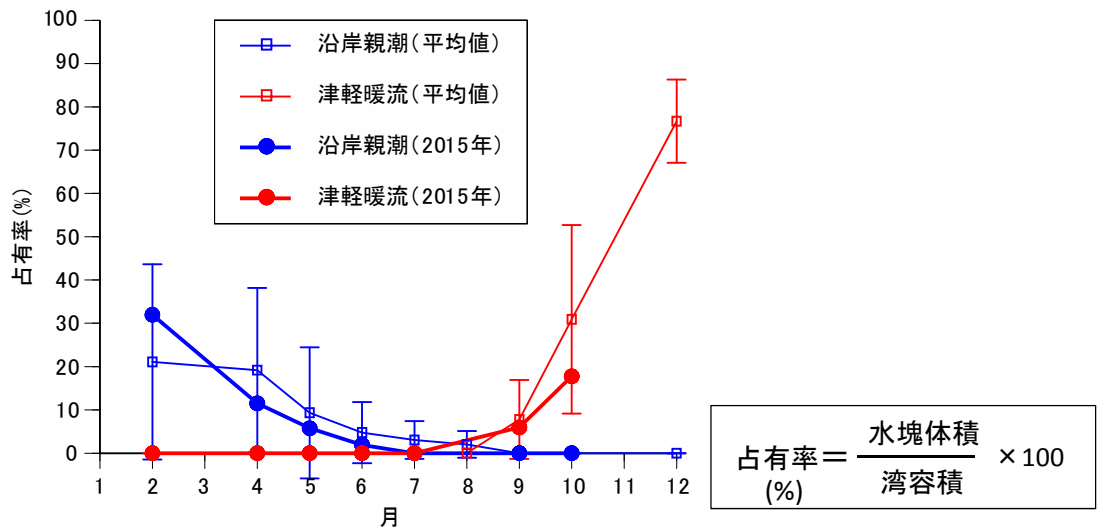


図3 噴火湾における沿岸親潮, 津軽暖流水の占有率

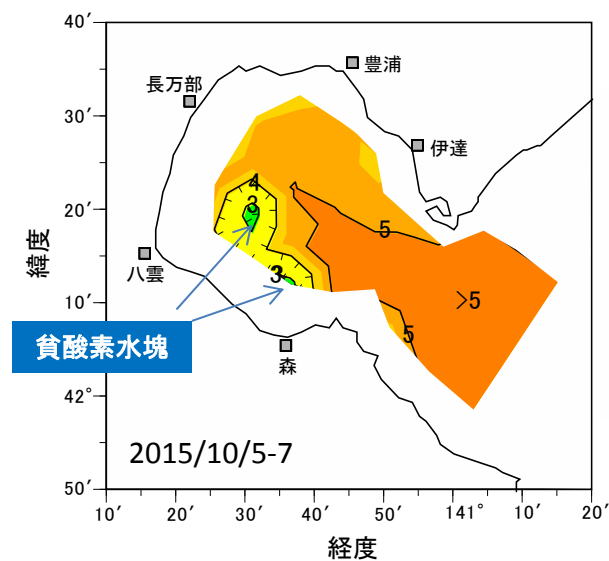


図4 海底直上約10mにおける溶存酸素量(ml/L)の水平分布

函館水産試験場のHPからもご覧になれます
<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/index.html>